「バルカン」に於ける三王國王室の由來と其の國民の關係

前ルーマニヤ公使法學士　堀口九萬一

一

巴爾幹は曾て大戰前に於て世界騷亂の噴火口と云はれたが、大戰後に於ても尙依然として噴火口たるの觀がある。其の原因は政治的、軍事的、地理的の各種に亘つて存在するが、就中最も重大なのは、各一國內に於ける異人種の疾視反目である。抑々巴爾幹の地理範圍は、人に依り說を異にしてゐて、或はコンスタンチノープルを包含する舊土耳其の一部に、希臘、塞耳維、勃牙利、羅馬尼、チエツコスロヴキヤ迄も加へたものを云ふともあるし、又、土耳其を除外して專ら希臘、塞耳維、勃牙利、羅馬尼の四國の併稱とする者もあるが、こゝでは羅馬尼、塞耳維を重にし、之に勃牙利を附加して話さうと思ふ。

羅馬尼は、其の國の人からは、ローマニヤと呼ばれてゐる。これは昔羅馬人の建てた國と云ふ意味で彼等は自ら羅馬人の後裔を以て任じてゐるのである。言語もスラブ系の諸國に取卷かれてゐるに拘らず

ラチン語系で、伊太利、西班牙、佛蘭西等と其の系統を同じくする、であるから此等の言葉に通ずる人なれば二ヶ月も稽古すれば立派にルーマニヤ語を操れるやうになる。上下一般に佛語が普及してゐて、政府の機關新聞も、反對黨のそれも皆佛文で書かれたものがある位で、服裝も亦多く佛蘭西風である。

此の國が獨立國家として成立したのは、今から算へて僅かに五十九年前の事に過ぎぬ。これより先き一三八九年に土國の征服するところとなつて以來、一八七八年伯林會議の時迄は、ズッと土耳其の宗主權下にあつた。彼等が土耳其の治下にあつて如何なる支配を受けたかと云ふと、最初に彼等に臨んだのは希臘種のプリンスであつた。彼等希臘人は早くからコンスタンチノーブル附近に入込んで市街を作り、彼等は土耳其語及び土耳其治下の各國語に通じてゐるといふ特殊の地位を利用して諸般の便宜を得ると共に、大いに富を積んで隱然たる勢力を有してゐたが、土耳其政府はそれ等希臘人に年額百萬圓を納めさせることを條件としてルーマニヤプリンスの稱号を與へ、租稅徵收權をも許した。それで巨富を擁してゐる希臘人は、直ちに納付金を土耳其政府に提供してルーマニヤに入り、其の君侯になつたが、彼等の目的は最初から租稅の徵收にあつて、其の任期中に百萬圓に二倍も三倍もの利をつけて回收するつもりでかゝつた仕事であるから、頻りに徵稅權を濫用して苛斂誅求を始め、年額三四百萬圓乃至一千萬圓以上の徵收をして尙飽くことを知らなかつた。

治下の羅馬尼人が、其の苦痛に堪えかねて反乱を考へたのは當然の話で、當時恰も勃然たる興隆の勢ひを示してゐた露西亞に頼つて、其の苦境から救はれんことを希ふた。かねてからルーマニヤに對して食指の動いてゐた露西亞は、奇貨措くべしとして直ちに干渉を開始し、漸次に手を伸ばして一八一二年にはベッサラビヤを收め、一八二六年には遂に全ルーマニヤを保護國とするに至つた。

斯くして露西亞は羅馬尼に於て完全に其の實權をにぎることになつたが、名義上の宗主權は依然として土耳其にあつて、羅馬尼ではバラシーとモルダビーとの二地方が互に王を立てることを爭つて常に紛紜が絶えなかつた。そこで此の地方の有力者が互に相談をして、いつそ何の關係もない他國からプリンスを養子に貰ひ受けた方が無事であらうと云ふので、其の結果獨逸から呼迎へたのが、當時プロイセンの士官であつたホーヘンツオルレン、シグマリンゲン家のシャル、親王を奉戴することにしたのである。

そういふ事情で、シャル、一世が新たに羅馬尼君公として都入りをしたのは、今から算へて六十九年前の一八六六年五月二十二日の事で、王は就任後直ちに諸般の改革に着手し、頗る其の統治に力を盡されたが、最初の間は君民の間が容易にピッタリとしないで、紛亂は依然として繰返された。

其の上に尙羅馬尼は、今度の大戰の結果人口面積ともに二倍の增大を見たので、人種、言語、風習、宗教を異にする人民が新に混入して來たので、隨分其の統治に困難を感じてゐる。今假に羅馬尼現住民

の各人種別をして見ると、匈牙利人が百萬人以上、獨人が約七十五萬人、猶太人七十万人、ウクライナ人七十萬人、勃牙利二十萬人で、其外に尙純露人でボルシエビキの難を避けて來たものが約十萬人、韃靼人が十萬人、チガーヌ遊牧民が八萬人、波蘭人が五萬人、塞耳維人五萬人、土耳古人五萬人、希臘人一萬五千人、アルメニヤ人一萬人、ナポレオン三世が移民したスイス、フランセー村民が若干といふ風に、十四種の違つた人民が混在してゐるのである。これでは如何に當路者が努力しても、容易に統治の實効の擧がらないのは偶然でないと云はねばならぬ。

しかも直接此等の人民に接觸して統治に當つてゐるものは如何なる人物であるかといふに、羅馬尼では戰後急に膨脹した國土の各地方に配置すべき官吏の欠乏を感じた爲め、止むを得ず應急の措置として苟くも生拔の羅馬尼人で二心のなさゝうな者でさへあれば、之を拔擢して知事、縣令、郡長等の比較的要職に就けた。そこで羅馬尼人よりも優秀な文化を持つてゐると自信してゐる民族は、それ等の急造地方官の治下にあることを屑しとせず、不平百出の有樣である。此等は併合の初頭には何れの國にも免かれ難い事である。

二

以上は巴爾幹の一國たる羅馬尼の概況であるが、更に同國から一歩塞耳維へ入つて見ると、其の困難

の有樣は又羅馬尼以上である。

塞耳維が獨立したのも一八七八年の伯林條約以後で、國の成立の新らしい事は羅馬尼同樣であるが、王家の成立も亦極めて新らしく、現王アレキサンダーの父ピエル一世が王位に即かれたのは、僅かに二十年前の一九〇六年六月十五日の事である。斯くの如き有樣で王室と人民との親しみはまだ頗る淺いのみならず、大戰以後俄に國が大きくなつて、戰前の四倍半に達したため、其の治下には羅馬尼以上の異人種を包容することとなり、殊にマセドンが新たに其の領土内に入つたことは、一層統治難の原因を增してゐる。

此のマセドンといふ地方は、各國人の寄集り場所として知られた所で、歐洲の料理で色々の物をゴチヤゴチヤと寄集めた一種のサラダを、サラード・マセトアンといふのはこれが爲である。此の地は曾て土耳古にも勃牙利にも屈してゐた事があるが、何れも其の統治には手を燒いた經驗を持つてゐる。それが大戰の分前として塞耳維へ附いて來たのである。

元匈牙利のクロアシーも大戰後新に塞耳維領に入つた地方の有數なもので、塞耳維が戰後其の國號をセルブ、クロワードと改めたのも之が爲めであるが、是亦同國に取つては難物の一つで、文明の程度に於て舊塞耳維よりも優つてゐると自信する彼等は、塞耳維人の支配を受けることを好まず、其の中の或る

者は共和黨を立てゝ、獨逸種のラチツチなる者を其の主領に戴き、演說に新聞紙に、公然反塞耳維的態度を示してゐる位である。以て統御難の一班を察すべしである。

最後に勃牙利はどうであるかと云ふに、これ亦一八九六年初めて其の獨立を認められた新しい國である事は、前述二國と同樣であるが、只異るのは、羅馬尼も塞耳維も、大戰の時には協商側に參加して、戰後は成金國となつたのに對して、勃牙利は獨墺側に與して、敗戰の憂目を見たゝめ、慘憺たる悲況にある點である。兵數の如きも、條約に於て僅々三萬人に限定され、しかも其の大部分は敎育ある精兵でなく、失職官吏等から組成された義勇兵と憲兵のみであるから、國防も薄弱で、凡てに於て微々たる有樣である。

此の勃牙利の國王も、亦た獨逸から養子に來た王であるが、大戰の結果勃牙利が敗者の位地に置かれたのを見ると、國民は其の責を王に歸して、元來勃牙利は今度の戰爭には參加する必要がなかつたのである。それで我々は參加するなと叫んだのに、フエルジナン王は獨逸方の血統を引いて居るため、我々國民の意志に反して獨逸方に與し、其の結果今この國辱を招いたのである。斯かる人物を我々は王として戴くことは出來ないと云つて、王を國外に逐うた。現王ボリユースは、其の皇子であるが、國內の紛亂狀態は寧ろ前述の二國以上であるといつてよい。

或る人は、近き將來に於ける巴爾幹騷亂の噴火口は勃牙利に爆發を見るであらうといつたが、去る四月十五日の大爆發事件は之を事實に証明するものである。此の爆發事件はモスコーに本部を置く露國の第三インターナショナルが、勃牙利王並に其の大臣全体を屠殺する計畫の下に勃國内の不平分子を煽動して爲させたもので、最初は先づ王一人を暗殺するつもりで、王が毎土曜日に必ず狩獵場に赴き、日曜は其處に宿泊して、月曜日の午前十時に侍從武官、書記官並に運轉手と四人で自働車で歸つて來る定めに成つてゐるのを窺ひ知り、ちやうど午前八時半頃一行が山間の狹路に歸りかゝられる處を要して、山の上下から狙撃したが、第一彈が自働車の運轉手に當つて、運轉手がハンドルを放した爲め、自働車は烈しい勢ひで急坂を辷り落ちて電信柱に衝突顚覆し、王は偶然にも奇禍を免かれたのであつた。

例のソフィヤの大伽藍爆發事件は、其の翌日の事である。王樣の暗殺に失敗した第三インターナショナル黨員は、更に王と共に新舊内閣の大臣達をも合はせて屠殺すべく、人望ある陸軍大將の葬儀にそれ等の人々が會合したのを機會に、其の大伽藍を爆發したのである。此の時にも王は奇蹟的に其の死を免かれたが、陸軍内務の兩大臣は横死を遂げ、其の他死傷者七百餘名に上つた。

斯ういふ風に雷さへ、君民の間が疎隔してシックリと行かない所へ外から煽動する者があるのであるから、實に巴爾幹は至る所に爆彈を蓄へてゐるやうなもので、危險此上もないものである。

三

所で是等三國の國際的關係は如何といふに、先づ婚緣關係に於て、巴爾幹諸國の王室は互に頗る複雜な立場を持つてゐる。羅馬尼と勃牙利の王室が、共に獨逸系の皇族であるとは前に云つた通りであるが羅馬尼の前王チャールスの皇后は王と同じく獨逸系であつたが、現皇帝フエルヂナンドの皇后マリー陛下は英國のビクトリヤ女王の孫女である。そして現王の息女達は、第一女が希臘王、第二女は塞耳維現王の后妃となり、第三女は近く勃牙利王の后妃となられると云ふ評判である。

所が一方又政治的方面を觀ると、羅馬尼は塞耳維の外にチエツコスロヴキヤを加へた一種の防禦同盟を作つて、匈牙利の復興に備へてゐる。この同盟は、プチツト・アンタントと歐洲の外交界で稱せられるもので、大強國の協商に對する小強國の條約の意味を有し、此の三國は曾て大戰の結果として舊匈牙利の領土を分取したから、もし他日勃牙利王家が復興するやうな事があつてはお互に困るといふ利害關係から出來たものであるが、斯ういふ風に塞耳維と羅馬尼とは、二重三重に深い關係があるから、此の兩國はそれでは今後も尙永久に親善をつゞけるであらうかといふに、塞耳維は曾て自國の獨立に際して特別の盡力をして吳れた露西亞を深く德としてゐて、露西亞の爲めには一切を拋つても報恩をせねばならぬといふ確い信念を持ち、他日もし露國と羅馬尼がベッサラビヤ問題で干戈の間に相見えるやうな事

になれば、王室の婚緣關係、其の他の特別關係はさしおいても、露西亞の爲めに中立する覺悟を抱いてゐると見られてゐるから、今俄に將來を保証することは出來ないのである。

國際關係が右の如くである上に、國民間の關係が上述の如くシックリと行かないのである。況んや一方では、絶えず乘ずべき間隙を窺つてゐる露西亞の第三インターナショナルが、巴爾幹革命本部を井エンナに置いて、塞耳維及び勃牙利に巨額の金を撒きちらし、直接間接に騷亂を煽動するのであるから、一朝巴爾幹の一角に烽火が擧つたならば、其の結果は恐らく拾收すべからざるものがあるであらう。それにつけても、我々は君民一体、金甌無欠の譬へん方もない我が尊い國柄を、心から深く欣ぶものである。

王者不治夷狄論の結言

蘇東坡

春秋之疾二戎狄一者非レ疾二純戎狄一也。

疾下天以二中國一而流入二戎狄一者上也。

揚文公家訓

童穉之學不レ止二記誦一、養二其良能一、當下以二先入之言一爲上レ主、日記二故事一、不レ拘二今古一、必先以二孝弟忠信禮儀廉恥等事一、如二黃香扇レ枕、陸績懷レ橘、叔敖陰德、子路負レ米之類、只如二俗說一、便曉二此道理一、久久成熟、德性若二自然一矣。